

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
 担当課長名：川崎 茂信

事業名 <small>あさひかわとかち</small> 旭川十勝道路（一般国道38号） <small>ふらの</small> 富良野道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局	
起終点 自： <small>ほっかいどうふらの</small> 北海道富良野市字学田三区 <small>がくてんさんく</small> 至： <small>ほっかいどうふらの</small> 北海道富良野市字上五区 <small>かみごく</small>	延長 8.3 km		
事業概要 旭川十勝道路は、旭川市を起点とし、富良野市を經由して占冠村に至る延長約120kmの地域高規格道路である。 このうち富良野道路は、高速ネットワークの拡充による上川圏と十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援をするとともに、富良野市街における交通混雑の緩和等を目的とした、富良野市字学田三区から字上五区に至る延長8.3kmの事業である。			
H14年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H15年度用地着手	H18年度工事着手
全体事業費	約437億円	事業進捗率	70%
計画交通量	9,600～9,900台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.04	総費用： <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 107/485億円 事業費：77/455億円 維持管理費：31/31億円
	(残事業)	4.7	
		総便益： <small>(残事業)/ (事業全体)</small> 507/507億円 (走行時間短縮便益：418/418億円) (走行経費減少便益：67/67億円) (交通事故減少便益：22/22億円)	基準年 平成27年
感度分析の結果 事業全体および残事業について感度分析を実施 【事業全体】交通量：B/C=0.9～1.2（交通量±10%） 事業費：B/C=1.0～1.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.0～1.0（事業期間±20%）			
【残事業】交通量：B/C=4.2～5.2（交通量±10%） 事業費：B/C=4.5～5.1（事業費±10%） 事業期間：B/C=4.7～4.8（事業期間±20%）			
事業の効果等 事業の必要性及び効果			
①主要都市間の利便性向上 ・旭川市と帯広市の所要時間が夏期で4分（冬期は9分）短縮され、地域住民の利便性向上や地域間交流の活性化が期待される。			
②交通混雑の緩和 ・富良野市内を通過する交通の当該道路への転換が見込まれ、主要渋滞区間の解消などによる交通混雑の緩和が期待される。			
③主要な観光地への利便性向上 ・確実性及び快適性の高い周遊ルートが確保され、主要な観光地への利便性向上が期待される。			
④物流の利便性向上 ・富良野・美瑛地域から札幌市や道外へ出荷される青果物（にんじん、たまねぎ等約33,000t/年）の流通利便性向上が期待される。			
⑤災害時の緊急輸送ルートの強化 ・被災した地域からの迅速な救急搬送や救援物資等の輸送の確実性向上が期待される。			
⑥道路交通の安全性向上 ・富良野市街地に集中する交通の分散が図られ、道路交通の安全性向上が期待される。			
⑦地域連携プロジェクトの支援 ・観光庭園間の速達性の高い移動経路が確保され、地域連携による観光振興への支援が期待される。			
⑧救急搬送の安定性向上 ・搬送時間の短縮とともに、冬期の視程障害が緩和され、救急搬送の速達性及び安定性向上が期待される。			
⑨CO ₂ 排出量の削減 ・自動車からのCO ₂ 排出量3,329（t-CO ₂ /年）の削減が期待される。			

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

富良野市、旭川市など4市17町2村の首長等で構成される「北海道上川地方総合開発期成会」等より整備促進の要望を受けている。

知事の意見：

高速ネットワークの拡充による上川圏と十勝圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援をするとともに、富良野市街における交通混雑の緩和等が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、平成11年10月7日付け環政第550号「地域高規格道路旭川十勝道路（中富良野町～富良野市間）に係る環境影響評価準備書について」の知事意見を遵守すること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、より一層、効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針について、北海道開発局案を妥当と判断する。なお、道路事業の総事業費の設定に当たっては、当初調査の充実や地質変動リスクの適切な反映などについて検討すること。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道が十勝清水IC～夕張ICまで開通
- ・シーニックバイウェイ北海道大雪・富良野ルート指定
- ・富良野・美瑛広域観光圏整備実施計画認定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成18年度に工事着手して、用地進捗率100%、事業進捗率70%となっている。
(平成27年3月末時点)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

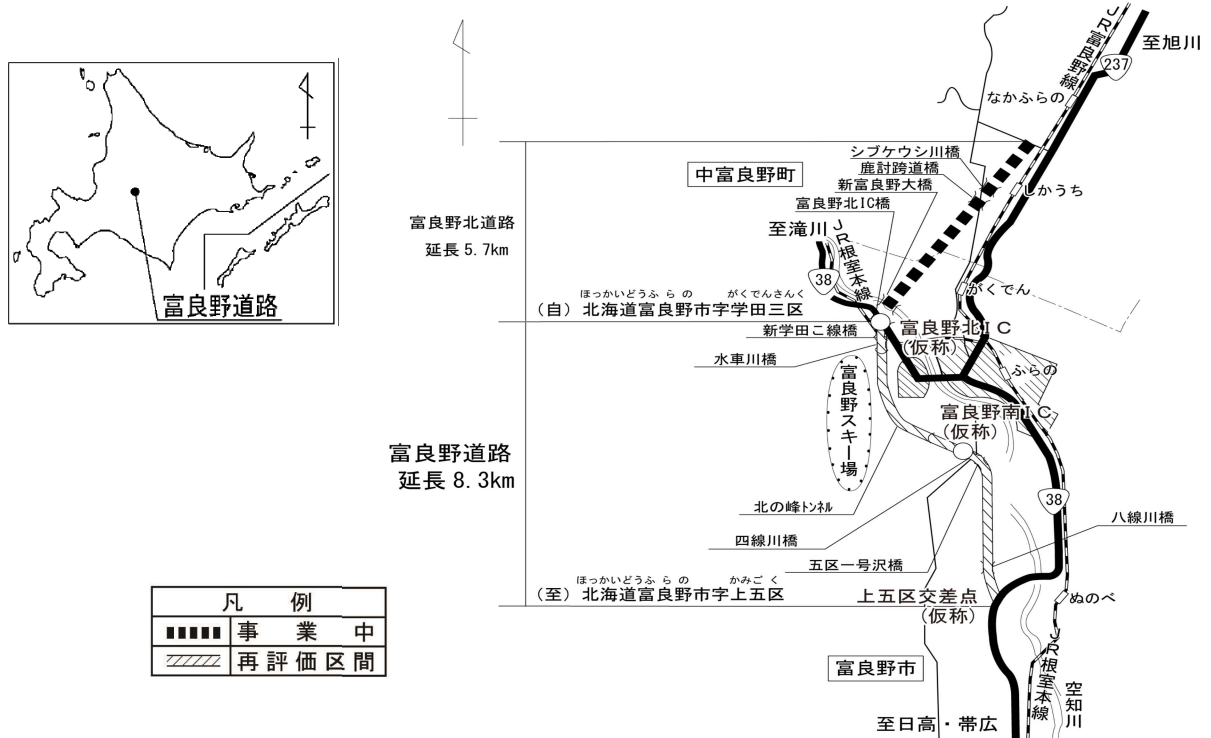
・トンネル掘削パターンの変更、トンネル補助工法及びトンネル止水注入工の追加、舗装工の変更により事業費が増加している。引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。